

『星陰りて、謀り響く』  
PC5 用ハンドアウト

陰謀論者のマードーミステリー

コードネーム: カプリッチオ

ネタバレ防止用ページ

どくはく  
独白。

私は知った。この世界の隙間<sup>すきま</sup>でささやかれる、ばかばかしい陰謀論<sup>いんぼうろん</sup>が真実であることを——陰謀論者の根城『夏音<sup>かのん</sup>』は、陰謀から世界を救う、最後の砦<sup>とりで</sup>であることを。

私は犯人でない。その死の直前、私は夏音のリーダー『フーガ』から鍵とノート<sup>たく</sup>を託された。フーガの意思を継ぎ、冒瀆的な計画を止めなければならない。

本ハンドアウトは、追加ハンドアウト「ロンドの研究ノート」と合わせて配布されています。渡された時点で読んでいただいて問題ありません。

## キャラクター設定

本名	自由
コードネーム	カプリッチオ Caprittio
年齢	自由（28 歳～）
性別	自由
一人称	自由（ここでは仮に「私」としています）
容姿	自由
誕生日	5 月 20 日（おうし座）
血液型	O 型 Rh(-)
出身地	γ国 「ジョカ」市
職業	夏音加入以前から、政府官僚をしている。
性格	素直。
その他の設定	フーガを尊敬している。アリアと恋人同士だった。

## 恋人の設定

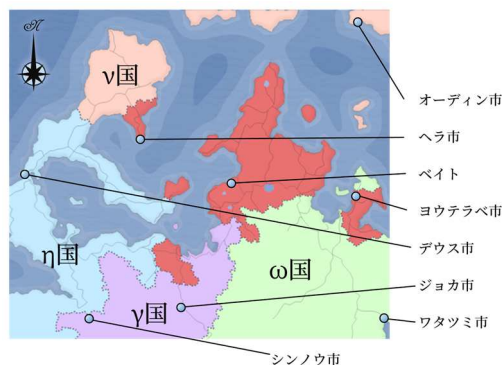
本名	アリアケ・アオイ
コードネーム	アリア Aria
年齢	27 歳
性別	セレナーデが設定します。(相談禁止)
一人称	セレナーデが設定します。(相談禁止)
容姿	セレナーデが設定します。(相談禁止)
誕生日	11 月 30 日 (いて座)
血液型	O 型 Rh(-)
出身地	χ 国東飛び地 「ヨウテラベ」 市
職業	元夏音メンバー。脱退後は図書館員。
性格	明るく、冷静。差別を決して許さない。
その他の設定	<p>セレナーデと幼馴染。国立コウトスミ大学文学部に進み、大学・修士課程では民俗学・考古学を専攻。夏音創立時にカプリッチオと知り合い、交際するようになったが、裏切ったと考えられる。</p>

## 私の英雄 夏音前夜

大切なことは、いつも後から知った。あの日も——。

仕事をしていた。同僚も出払った静かな部屋に淹れたてのカプチーノが薫る。

<sup>ガンマ</sup>γ国出身ながら<sup>χ</sup>国の政府官僚となった両親の背中を追ったカプリッチオは、元首直属経済推進室で働いていた。



乱暴に扉が開き、元首補佐官（フーガ）が部屋に入ってきた。<sup>χ</sup>国の発展を支えた陰の立役者。部下として、同じ部屋で働けることをカプリッチオは誇りにしていた。

声をかけてもフーガにはまるで何も聞こえていないようだった。眉間のしわはかつてないほど深く、顔は青ざめていた。震える手でカバンに荷物を詰め込み、追われるように部屋を出る。

帰り支度ではない。ただの帰り支度で、<sup>たくじょう</sup>卓上の家族写真を片づけるだろうか。フーガがどこか遠くに行ってしまう、そんな予感がカプリッチオの胸を貫いた。

後を追うと、フーガは車に乗り込もうとしていた。「——補佐官」

今度は聞こえたようだ。いつもは広い背中を小さくびくつかせ、フーガが振り返る。「補佐官が何を恐れているか知りませんが、そんな手で運転できるのですか？」

何から逃げているとも知らず車を飛ばす。助手席のフーガは、カバンを抱えていた。「すまない」震えた声がとなりから聞こえた。「巻き込んでしまった」「どういうことですか？」

意外に、冷静だった。大変なことに巻き込まれているのは、とうに気が付いていた。「このカバンにはね、この国を亡ぼすモノが入っているんだよ」

ペイトの郊外までくると、フーガの震えもだいぶ落ち着いたようだった。ここからは一人で大丈夫だ、というフーガに、カプリッチオは連絡するよう念を押し、職場に戻った。その後、フーガは<sup>ガンマ</sup>γ国、<sup>イータ</sup>η国を經由し、ヘラ市の国立コウトスミ大学にたどり着いたらしい。

旧友の民俗学教授（ロンド）にかくまわれたとの連絡にカプリッチオは胸をなでおろす。『夏音』が設立されたのは、その後すぐであった。

## 夏音

『夏音』は「政府の陰謀からこの国を守るための組織」であると説明された。

フーガが語る陰謀というのは「超高層ビルは宇宙人を招き寄せるための装置」だとか「政府中枢は宗教的儀式に国民を捧げようと考えている」だとか、オカルトじみた内容ばかりだった。しかし、当局の尋常<sup>じんじょう</sup>でない捜査とプロパガンダは、逆説的に「政府の陰謀」を証明していた。なによりフーガの真剣な瞳は、伊達<sup>だて</sup>でも酔狂<sup>すいきょう</sup>でもなかった。カプリッチオは忙しい仕事の合間<sup>あいま</sup>を縫<sup>ぬ</sup>って、夏音の組織運営を担った。

199 年 7 月、χ国全体を経済不安<sup>おそ</sup>が襲った。みるみる悪化していく雇用、治安に、カプリッチオが所属する元首直属経済推進室は頭を抱えていた。元首補佐官がいれば、χ国が失った経済のプロを惜しむ声も多かったが、あの日以来、行方不明として扱われていた。思えばアリアが抜けたのも、そして、裏切ったのもおそらくこの経済不安のせいだ。

アリア。本名、アリアケ・アオイ。夏音で出会ったカプリッチオの恋人である。ロンドの生徒で、純真<sup>じゅんしん</sup>で聡明だった。差別に厳しかった。

アリアは修士課程<sup>しゅうりょう</sup>を修了すると同時に、夏音を脱退した。200 年 3 月のことである。「就職難で何とか見つけた職業だから」

アリアの説明にカプリッチオは眉をひそめた。ララバイみたいに夏音<sup>やと</sup>で雇うこともできる。そう提案しても、アリアは押しだまったままだった。そして静かに「私の信じない正義は背負えない」とだけ答えたのだ。夏音と陰謀の正体をより深く知るアリアに、カプリッチオは何も言うことができなかった。

アリアは地元、ヨウテラベ市の図書館に就職した。脱退後も交際は円満で、カプリッチオも何度もヨウテラベ市でデートをした。地元の友達を交えて食事をとることもあった。特に、4 年前、交際を始めたころに紹介してもらった幼馴染のレン（のちにセレナーデと判明する）とは、何度も会う機会があった。

最初にアリアの裏切りに気が付いたのも、カプリッチオである。夏音全体を取り仕切る立場から、情報が漏れていることに気が付いたのだ。それも、アリアが抜けた春ごろに、急増していた。「私の信じない正義は背負えない」の一言が脳内にこだました。

アリア脱退から一年強。カプリッチオとの交際を続けていたのも、情報を抜き取るためだろう。カプリッチオはようやく、自分が利用されていることに気が付いた。

アリアが裏切った証拠がある、とフーガに伝えたと、やはり、という顔で、「今後は脱退したものとの接触を禁じる」と告げた。夏音全体に適用され、情報漏洩<sup>ろうえい</sup>は止まった。

それでも、時折<sup>ときおり</sup>アリアのことを考えてしまう。去年のアリアの誕生日、声が聞きたくて里帰り先のジョカ市から電話をかけたが、アリアは出なかった。もう見限られたかな。

今はどうしているだろうか。図書館員を続けているのだろうか。どこかに潜入しているのだろうか。もしかしたら、変装して夏音に戻っているのかも……なんて下らないな。

## バトン 事件前夜

「これから君に教えることは、本当は君に教えたくなかったことだ。

私一人でなんとか出来ればよかった。でも、それはもう無理みたいだ。

ずっと私を信じてくれたカプリッチオに、鍵とノートと石板を託そう。

君は明日、作戦に同行せずこの町から離れなさい」

その手は、あの日と同じように、震えていた。

「そこに全部、載っている。『陰謀』の正体も、『夏音』の存在理由も。」

29日の昼下がり。二人とも28日の時点で隠れ家に着いていたが、ほかのメンバーが来る直前、カプリッチオはフーガの部屋に呼ばれていた。久しぶりに見た仮面の下は薬品で焼かれ、面影はない。

「もう無理みたいだ、ってどういうことですか？」

「この町には、当局の手が及んでいる。明日の爆破計画が成っても、私は捕まるだろう」

嫌な予感がした。5年前、あのとき感じた予感だった。

「私がお守りします」「石板を守ってくれ。私が命をかけて守ったものだ」

フーガが死んだ晩。自室に帰ったカプリッチオはロンドの研究ノートを読んでいた。そこには、かつて地球を支配した、おぞましい「旧支配者」のこと、政府がそれを召喚しようとしていることが記されていた。

大切なことは、いつも後から知った。今は、全てを知っている。

フーガは死んだ。

先を歩く、世界を守っていた偉大な先達<sup>せんだつ</sup>が死んだ。今度は――

私が世界を守る番だ。



## 事件の記録

### 作戦会議～フーガ目撃

- 11/29                   ウラミワ市の隠れ家に、ほかのメンバーも順に集まった。
- 21:00～               顔合わせと作戦会議。セレナーデと名乗ったのは、アリアの幼馴染のレンだった。
- 22:15               シンフォニーが外出した。ほかの人はリビング・ダイニングに残った。ララバイと話していたセレナーデに声をかけたが、無視された。
- 22:30               キャロルが外出した。
- 23:17               爆弾を設置のために、ララバイとセレナーデが車で外出した。ノートを読もうと自室へ帰った。フーガも 3 階へ。誰かが帰ってきた音。
- 11/30 00:30       ノートのあまりの内容に圧倒され、カプチーノを淹れにキッチンへ行った。そのまま、リビング・ダイニングで休む。
- 01:02               シンフォニーが1階へ下りてきた。あわてて表情を作って話をした。シンフォニーはχ国が他国を蹂躪<sup>じゅうりん</sup>していた時代へ戻りたいようだ。気分を害さないように相槌は打ったが、正直言って危険な愛国心だ。
- 01:30               キャロルが外から帰ってきた。
- 01:40               シンフォニーと話して、少し気がまぎれた。部屋へ戻ってノートの続きを読んだ。
- 01:45               足音がして扉を開けると、キャロルが隠し扉から 3 階へ行こうとしていた。呼び止める、部屋の前の窓で夜空を見ながら 02:30 まで会話を交わした。ロンドが死んだ今、貴重な創立メンバーだ。
- 01:47               1 階の階段を上る足音がした。
- 01:55               フーガが1階の階段のほうから歩いてきた。体調が悪いのか、壁に手をついてゆっくりと歩いている。声をかけたが、フーガは首を振り、隠し扉に姿を消した。

## フーガ目撃後～就寝

- 01:59            シンフォニーが急いで自身の部屋に駆け込んでいった。
- 02:00            シンフォニーがタバコを吸いながら部屋から出てきた。  
                 カプリッチオ「タバコを吸うのか」  
                 シンフォニー「禁煙していたのですが.....正直、緊張しています」  
                 そのまま、シンフォニーはリビング・ダイニングに戻った。
- 02:30            キャロルが部屋に帰った。カプチーノがなくなったので、1階へ下  
                 りると、シンフォニーがいた。他国から学べることは数多く、シンフ  
                 ォニーの愛国心は危険だと説得したが、理解は得られなかった。
- 02:36            ララバイの部屋前の収納から、セレナーデが出てきた。ララバイの  
                 部屋には鍵がかかっているはずだが。「ちょっと話がしたい」と声をか  
                 けたが、セレナーデは何も言わずに2階へ行ったようだ。
- 02:42            ララバイが帰ってきた。酔っ払っているようで、千鳥足だった。危  
                 ない足取りで2階へ上っていった。
- 02:50            夜も更け、部屋に戻った。シンフォニーも同じようだ。
- 03:00            家のどこからともなく、冒流的な歌が聞こえた。
- 03:12            ノートの続きを読んでいると、外で足音がした。ララバイが3階か  
                 ら降りてきたようだ。ララバイは会釈して通り過ぎた。  
                 その後ノートを読み終わり、ベッドで考え事をしているといつの間  
                 にか寝ていた。

## 死体発見

- 06:00            朝、支度をしてから、リビング・ダイニングに行った。
- 06:45            フーガを呼びに行くと、閉まった扉の隙間から鉄のさびたような匂いがした。  
                 血の匂い。急いで中に入ると、人影が伏せて倒れている。体には刃物の痕が無数に刻  
                 まれている。声も上げられず、駆け寄った。仮面を外す。こめかみに銃創。死体の顔は  
                 昨日と同じく薬品で焼かれ、顔はただれている。落とした仮面が乾いた音を響かせた。

## キャラクターのカード

以下の説明は、実際のカードの説明と異なる場合があります。

### 昨夜の記録    ??    ?

何を書いてあるか、予想できない。

### 持ち物 A    鍵

フーガの部屋にある金庫の鍵。ノートとともに、フーガから託された。金庫の中には「石板〈ハスターの招来・解放〉」が入っている。

効果:            鍵を所有しているプレイヤーが「金庫」を閲覧することで「石板〈ハスターの招来・解放〉」を所有できる。

### 持ち物 B    手錠

市販の手錠だが、外国製で非常に頑丈な作りである。

効果:            エンディングで1人拘束することができる。

### 切り札            ロンドの研究ノート

フーガから渡されたノート。

効果:            所有・閲覧することで追加ハンドアウト「ロンドの研究ノート」が閲覧できる。カプリッチオはPC用ハンドアウトと同時に渡されるほか、全体公開した場合、全プレイヤーに「ロンドの研究ノート」が渡される。

## プレイヤーの目標

プレイヤーの行動を制限するものではなく、ロールプレイの指針となるものです。  
追加ハンドアウトにより、変更される場合があります。

BONUS は最終投票の後に時間がありますので、GM にこっそりと教えてください。

<b>フーガ殺害の犯人を推理</b> する	<b>0</b> 点
<b>生存</b> する	<b>3</b> 点
<b>リーダー</b> になる	<b>1</b> 点
<b>ハスターの招来・解放の儀式</b> を <b>食い止める</b>	<b>6</b> 点
BONUS: <b>アリア</b> が <b>今、何</b> をしているのか知る	<b>2</b> 点

## プレイヤーへのアドバイス

- ・犯人として拘束されると、エンディングがどうなろうと動けなくなってしまいます。
- ・ハスター招来・解放の儀式を食い止めるには、協力者をあつめましょう。
- ・あなたは陰謀の正体（ハスターの招来・解放）を知らないことになっています。情報の開示タイミングによっては鍵を狙われかねません。気を付けてください。

## カプリッチオ視点の登場人物

### PC1: シンフォニー

200 年 9 月から情報部長を務めている。初めて会うが危うさを感じる愛国主義者だ。

### PC2: セレナーデ

ヨウテラベ市出身で、アリアの幼馴染。夏音に加わっているとは知らなかった。

アリアについて何か知っているかもしれない。

### PC3: ララバイ

197 年 7 月に加入した。当時はメンバーを集めておらず、どうやってヘラ市の本部を見つけたのかわからない。おどおどしているように見えるが、潜入任務に長けている。

### PC4: キャロル

夏音の創立メンバーの一人。国立コウトスミ大学の大学院生で、アリアやロンドとともに研究をしていた。昔は何をしていたのか知らなかったが、ノートを読むことで理解できた。

### PC5: カプリッチオ

自分自身。夏音を創立した後も、官僚の仕事をつづけている。

### NPC: フーガ

カプリッチオにとっての偉人。ウラミワ市出身。7 月 22 日生まれ。

石板を盗み、カプリッチオが逃亡を手助けした。その後、夏音を設立した後もカプリッチオは付き従ったが、何をしようとしていたのかは今まで知らなかった。

### NPC: ロンド

国立コウトスミ大学文学部の教授。考古学・民俗学・言語学の権威。アリアとキャロルの指導教官。ハスターに関する研究をつづけ、ハスター招来に対する対抗策を探していたらしい。

### NPC: アリア／アリアケ・アオイ

ヨウテラベ市出身。11 月 30 日生まれ。カプリッチオの恋人で、夏音を裏切った。

## 知識・記憶

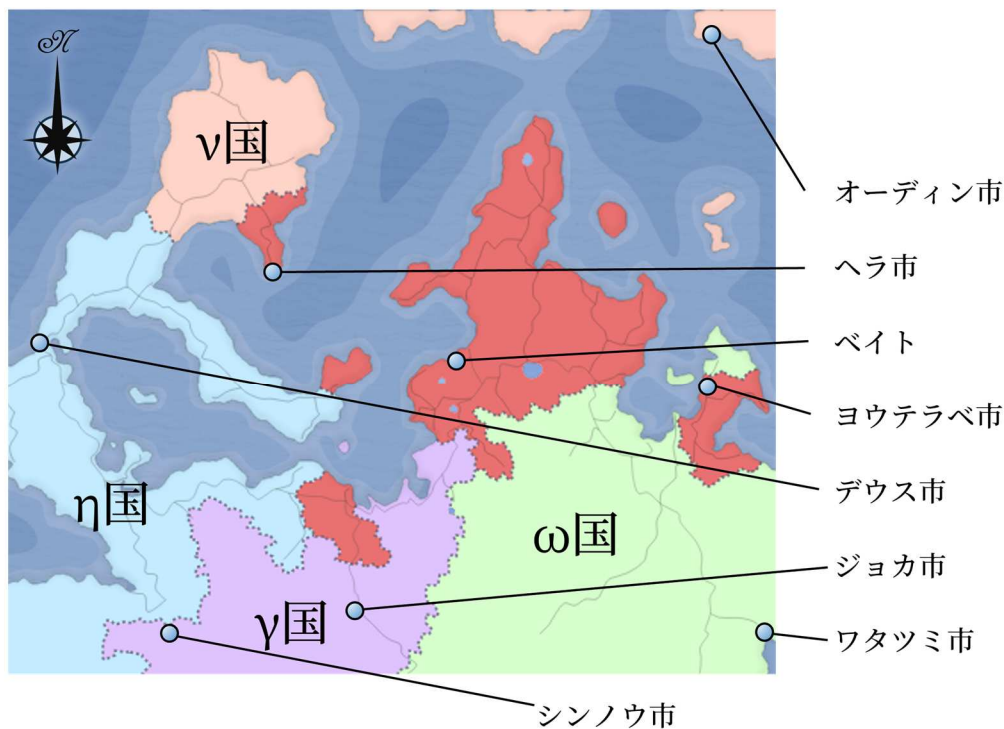
今までの話の補足です。ざっと目を通し、気になったら確認するといいいでしょう。

### χ国

かつては覇権国家でしたが、70年前の敗戦で多くの領土を失いました。重要な都市の多くを周辺諸国に割譲しましたが、必死な外交交渉の末に4つの飛び地が残されました。中でも南西飛び地は、周囲の重要経済都市を失ったあとの「割譲の残りカス」と揶揄されますが、交通の要衝であり、χ国としては大切な経済拠点です。

このように飛び地はいずれも経済的に重要でありながら、未発展な地域でした。周辺諸国は飛び地から本国や飛び地間の交通を制限することで、発展を食い止めようとしたようです。多くの都市を失ったχ国は長期にわたる、低迷を続けましたが、20～30年前から急発展を遂げました。多くの分析がありますが、カプリッチオはフーガの貢献なしでは成しえない偉業だと考えています。

戦後は廃止されていますが、χ国にはかつて階級制度がありました。王族の<sup>しゅんぞく</sup>春族、貴族の<sup>かぞく</sup>夏族、平民の<sup>しゅうぞく</sup>秋族そして、「被差別階級」の<sup>とうぞく</sup>冬族の4つです。冬族への偏見は現在も色濃く残っており、アリアはそういった差別を決して許しませんでした。



オーディン市、デウス市、シンノウ市、ワタツミ市

それぞれ  $\nu$  国、 $\eta$  国、 $\gamma$  国、 $\omega$  国の首都です。

ヘラ市

国立コウトスミ大学があり、石板を盗んだフーガの逃亡先です。夏音本部もここに設置されました。北西飛び地の重要な港町です。

ベイト

$\chi$ 国の首都です。 $\chi$ 国の心臓と呼ばれるほど経済的にも重要な都市です。出身地こそジョカ市ですが、物心がつく頃にはベイトで生まれ、自分にとっての故郷はベイトです。

官僚となったカプリッチオの職場であり、あの日、フーガが逃げ出した場所でもあります。

ヨウテラベ市

アリアの出身地です。

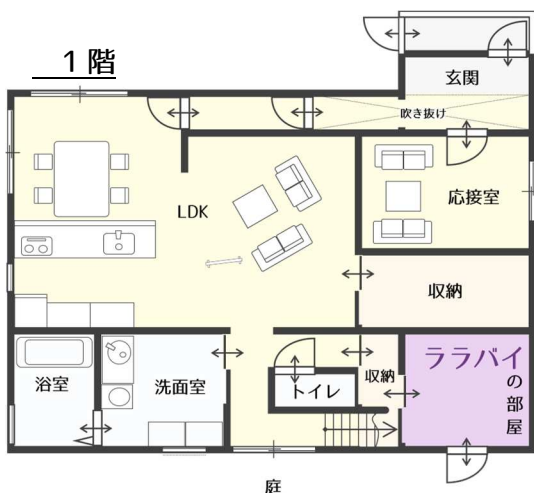
ジョカ市

カプリッチオと両親はもともと $\gamma$ 国の国民でした。どういった経緯かは知りませんが、両親は $\chi$ 国に帰化しました。 $\gamma$ 国の都市であるジョカ市はカプリッチオの生まれ故郷ですが、暮らしていたのは3歳ごろまでであり、年に1回訪れる程度です。

旧跡が多く、アリアも卒業旅行で行ったと話していました。

# 隠れ家

ウラミワ市にある夏音の隠れ家です。2階建ての一軒家に見えますが、3階建てです。  
あなたは幹部なので、隠し扉の向こう側を知っています。

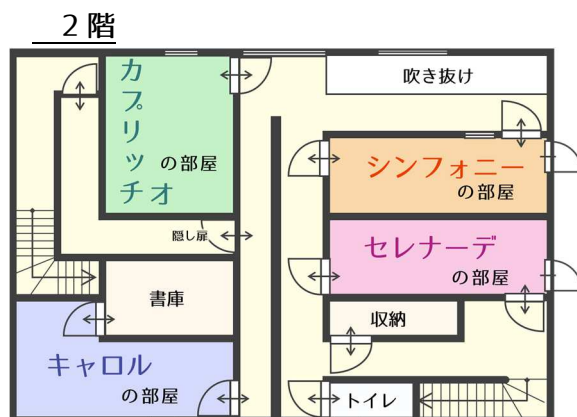


1階にはララバイの部屋のほか、会議に使われるリビング・ダイニングがあります。

吹き抜けは道具なしに登れそうにはありません。

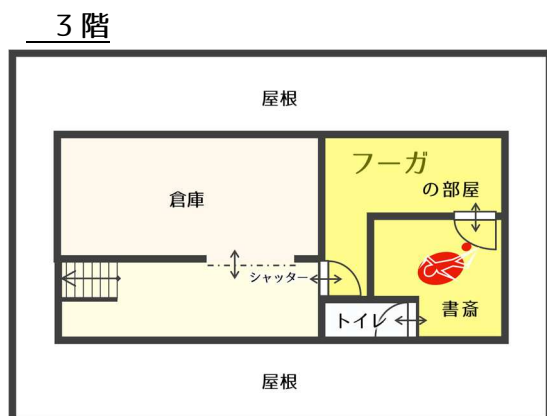
小さい方の収納は、出入りに不便なので空っぽです。

図には書かれていませんが、庭側に車庫もあります。



2階にはシンフォニー・セレナーデ・キャロル・カプリッチオの部屋があります。

隠し扉は、シンフォニー・ララバイ・キャロル・カプリッチオの幹部しか知りません。しかし殺人事件の調査のために、セレナーデも立ち入りがゆるぎました。



フーガの死体は3階のフーガの『書斎』で発見されました。(赤地に白の人型)

PCの部屋にはすべて鍵がかかります。外から開けるには、部屋の鍵を持っている必要があります。



## A4 一枚でわかる時系列

1??/05/20		カプリッチオが生まれる。
197/04		夏音設立。
07		ララバイ加入。
09		セレナーデに恋人として紹介される。
199/07		経済不安により、治安、雇用の悪化。
200/03		アリアが脱退。その後、情報漏洩が悪化。
09		シンフォニーが情報部の部長になる。
201/05 中旬		アリアの裏切りに気が付く。
11 下旬		ジョカ市からアリアに電話をかけてみる。
202 年 11 月 28 日		フーガとともに隠れ家に到着。
29 日	13:00	フーガからノートと鍵を託される。
	21:00	22:15 シンフォニー外出。
		22:30 キャロル外出。
	23:17	23:17 ララバイ・セレナーデ外出。誰かが帰還。
30 日		
	00:30	01:02 シンフォニーがリビング・ダイニングに合流。
with (シ)		01:30 キャロル帰還。
	01:40	01:45 キャロルと部屋前で遭遇。
with (キ)		01:55 フーガ目撃。
	02:30	02:00 シンフォニー目撃。
		02:30 キャロル部屋に戻る。
with (シ)		02:36 セレナーデ目撃。
		02:42 ララバイ目撃。
	02:50	03:00 冒涇的な歌が聞こえる。
		03:12 ララバイ目撃。
		06:45 死体発見。ゲーム開始。

| 1 階  
 (リビング・ダイニング)  
 || 2 階 (主に自室)